



Title: コピーもいる図書館

原稿の締切が近いのにいまいち気が乗らないとき、どうしたらいいんでしょうね。だらだらテレビやネットを見ているとあっという間に時間が過ぎちゃうし。私は3つの方法のどれかを試します。

①とにかく書き(打ち)始める。最初の1文は、「というわけで××です」。「というわけで」に意味はありません。最後に消去しますから。××もなんでもいいんです。で、それに続けて3つの文をむりやり書いてみると、その後はなんとなく続いてしまいます。

②何か2つか3つ、なるべく離れたテーマを選んでA3くらいの紙に単語をできるだけ書き出してみる。そのうち結構な確率でヒラメキが訪れます。

③大好きなことを書く。読む人のこととか図書館のこととか考えないで。既に自分の中に言葉があるので、いくらでも書けそうです。でも、自己満足に終わることも多いのが難。

ここまで①の方法で書いてみました。最後に半分以上削りましたが、結構字数を稼げるものです。ポイントは3という数字なのかも。さて、それでは図書館のはなし。

#### ❖おとまり会は大好評

5月7日(土)から8日にかけて開催した「ぬいぐるみのおとまり会」。おかげさまで好評でした。この催し、図書館界では流行りで、県内でも既に何館か行っています。当館でのおとまり会はタイミングが良かったのか、新聞の他に秋田朝日放送の「トレタテ!」の特集にも取り上げてもらいました。Fカメラマンの腕がいいのか、中央図書館がキレイな感じに映っていましたね。

嬉しかったのは、子どもたちが喜んでくれ、図書館や本により親しみを感じてもらえたこと。ぬいぐるみを迎えに来たとき、子どもたちがぬいぐるみたちが選んだ絵本を借りて行ってくれたこと。そしてもう一つ、参加したスタッフが喜々として作業に取り組んでいたことも館長としては嬉しいことでした。イベントには遊びと手づくりの要素がなければ、と再認識した次第です。協力していただいた「おはなしの森」の皆さんにも感謝です。

#### ❖コピーのいる図書館

4月から中央図書館では水槽で魚を飼っています。

1階貸出カウンターに向かって右側の、蔵書検索性PCの脇、小さな水槽に小さな魚が泳いでいます。すぐそばまで近づかないとわからないくらいの小ささです。名前はコピー。可愛い名前ですが、これは商品名で、コップで育てることが出来るくらい手のかからないことから名付けられたのだそうです。和名はアカヒレ。尾びれが赤いところからきています。

図書館は基本的に水を嫌いますから、小さいとはいえ水槽を置くなんて発想は、従来の図書館人からはまず出てきません。これを実行したのは、昨年着任以来、精力的に館内の緑化を進めてきたSさん。子どもたちが水槽を覗き込んで喜んで見ると、やってよかったと思います。

他にも、最近長足の進歩を遂げ、しげしげと見入る人が多くなったTさんの切り紙も図書館の呼び物となっています。これらは目立つ例ですが、ほかの職員も忙しい中それぞれの個性を生かした仕事をしてくれています。利用者の目に触れない仕事も多いので、おいおい紹介していければと思っています。

#### ❁認知症サポーターのいる図書館

認知症サポーターという言葉をご存知でしょうか。講習を受けて認知症を正しく理解し、必要があれば声掛けするなど、地域全体で認知症の方やその家族を見守り支援していこうという人々です。市立図書館では、4月に行った職員研修会で「認知症サポーター養成講座」を受講し、やむなく欠席した1名を除いた全員がサポーターになりました（文化会館からも2名参加）。

サポーターになったから何ができるというわけではありませんが、何かあった時に慌てず適切な行動をとるための心構えはできたと思います。高齢者の利用も多い図書館のこと、気になる行動や状態の方に気がついたら遠慮なく職員にお知らせください。

ちなみに平成28年3月末で、上位資格のキャラバンメイトを含めると全国の認知症サポーターはなんと750万人を超えています。大館にもすでにたくさんのサポーターがいることですが、もし初めて知って養成講座を受けたいと思った方がいたら、地域や職場などで10人以上の参加があれば無料で開くことができます。講師の日程調整の都合上、希望日の2ヶ月位前までに市の長寿課高齢者福祉係（電話43・7056）までご相談を。（陽）